

東京都公報

発行
東京都

目次

46

規程（交）

- 東京都電車条例施行規程の一部を改正する規程……………一
- 東京都電車障害者用ＩＣカード取扱規程の一部を改正する規程……………五
- 東京都地下高速電車旅客営業規程の一部を改正する規程……………五
- 東京都地下高速電車精神障害者旅客運賃割引規程の一部を改正する規程……………一〇
- 東京都地下高速電車連絡運輸規程の一部を改正する規程……………二
- 東京都日暮里・舎人ライナー条例施行規程の一部を改正する規程……………四

規程（交）

●交通局規程第三十三号

東京都電車条例施行規程の一部を改正する規程を次のように定める。

令和七年三月三十一日

東京都交通局長 久 我 英 男

東京都電車条例施行規程の一部を改正する規程

東京都電車条例施行規程（昭和三十九年交通局規程第三十七号）の一部を次のように改正する。

第二十四条の二中第三号を第四号とし、第二号の次に次の一号を加える。

三 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和二十五年法律第百二十三号）第四十五条第二項の規定により交付を受けた精神障害者保健福祉手帳（以下「精神障

害者手帳」という。）を所持する者及びその介護者

第二十四条の三中「第三号」を「第四号」に改める。

第二十九条中「並びに精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和二十五年法律第百二十三号）第四十五条第二項の規定により交付を受けた精神障害者保健福祉手帳を所持する者」を削る。

第五十八条第三号中「こん炉」の下に「（乗車中に使用するおそれがないと認められるもの及び懷炉を除く。ただし、不注意等により内容物が漏れ出ることがないよう措置することとする。）」を加える。

第五十九条ただし書中「第一号及び第二号に掲げるものにあつては、第六十条」を「次条」に改め、同条第一号中「中適用除外の物品及び危険のおそれのないものであつて、」を「のうち適用除外の物品であつて、不注意等により」、「処置されているもの」を「適切な保管対応が行われたもの。」に改める。

第五十九条第三号を削り、同条に次の一項を加える。

2 旅客は、列車等の状況により、運輸上支障を生ずるおそれがないと認められる場合に限り、次の各号に掲げる犬を車内に同伴させることができる。

一 身体障害者補助犬法（平成十四年法律第四十九号）第十六条第一項に規定する認定を受けた身体障害者補助犬。ただし、同法第十二条に規定された表示を行い、旅客が身体障害者補助犬認定証を所持する場合に限る。

二 道路交通法（昭和三十五年法律第百五号）第十四条第一項にいう政令で定める盲導犬。ただし、盲導犬がハーネスをつけ、旅客が盲導犬使用者証を所持する場合に限る。

第六十条第二項中「又は完全に包装された運動用具」を削り、同条に次の一項を加える。

3 旅客は、第一項に規定する制限内であつても、自転車及びサーフボード等の運動用具については、次の各号に掲げる場合に限り、車内に持ち込むことができる。

一 自転車にあつては、解体して専用の袋に収納したもの又は折りたたみ式自転車であつて、折りたたんで専用の袋に収納したもの

二 サーフボード等の運動用具にあつては、専用の袋に収納したもの

別表を次のように改める。

別表（第五十八条関係）
危険品

品目 番号	大分類	中分類	小分類	危険品の品目	適用除外の物品	
					物品	重量、数量等
爆発性 の物	火薬類	火薬	黒色火薬、その他硝酸塩を主とする火薬	銃用火薬	容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの	
			無煙火薬、その他硝酸エステルを主とする火薬			
			過塩素酸塩を主とする火薬			
		爆薬	雷こう、その他の起爆薬			
			硝安爆薬			
			塩素酸カリ爆薬			
			カーリット			
			その他の硝酸塩、塩素酸塩又は過塩素酸塩を主とする爆薬			
			硝酸エステル			
			ダイナマイト類			
			ニトロ化合物とこれを主とする爆薬			
		実包	雷管	銃用雷管	振動・衝撃等によって発火するおそれのない容器に収納した四百個以内のもの	弾帯又は薬こうにそう入し、又は振動・衝撃等によって発火するおそれのない容器に収納した二百個以内（競技用の口役○・ニイェンチ以内のライフル銃用実包又は拳銃用実包にあっては八百個以内のもの）
			空包	銃用空包		
			信管	—		
			火管	—		
爆発性 の物	火工品	導爆線	雷管又は火管付薬きよう	銃用雷管付薬きよう	振動・衝撃等によって発火するおそれのない容器に収納した四百個以内のもの	
			火薬又は爆薬を装てんした弾丸類	—		
		星火	星火を発する榴弾	—	—	
			救命発射器用ロケット	—		
		煙火	—	—	—	
			がん具煙火	がん具煙火（おもちや花火、発炎筒等）		
		競技用紙雷管（大形紙雷管を含む。）	—	競技用紙雷管及びその他のがん具用紙火工品	容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの	
			—	—		
		導火線	—	導火線又は電気導火	容器・荷造ともの重	
			—	—		

品目 番号	大分類	中分類	小分類	危険品の品目	適用除外の物品	
					物品	重量、数量等
爆発性 の物	火工品	火薬	黒色火薬、その他硝酸塩を主とする火薬	銃用火薬	容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの	
			無煙火薬、その他硝酸エステルを主とする火薬			
			過塩素酸塩を主とする火薬			
		爆薬	雷こう、その他の起爆薬			
			硝安爆薬			
			塩素酸カリ爆薬			
			カーリット			
			その他の硝酸塩、塩素酸塩又は過塩素酸塩を主とする爆薬			
			硝酸エステル			
			ダイナマイト類			
			ニトロ化合物とこれを主とする爆薬			
		実包	雷管	銃用雷管	振動・衝撃等によって発火するおそれのない容器に収納した四百個以内のもの	弾帯又は薬こうにそう入し、又は振動・衝撃等によって発火するおそれのない容器に収納した二百個以内（競技用の口役○・ニイェンチ以内のライフル銃用実包又は拳銃用実包にあっては八百個以内のもの）
			空包	銃用空包		
			信管	—		
			火管	—		
爆発性 の物	火工品	導爆線	雷管又は火管付薬きよう	銃用雷管付薬きよう	振動・衝撃等によって発火するおそれのない容器に収納した四百個以内のもの	
			火薬又は爆薬を装てんした弾丸類	—		
		星火	星火を発する榴弾	—	—	
			救命発射器用ロケット	—		
		煙火	—	—	—	
			がん具煙火	がん具煙火（おもちや花火、発炎筒等）		
		競技用紙雷管（大形紙雷管を含む。）	—	競技用紙雷管及びその他のがん具用紙火工品	容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの	
			—	—		
		導火線	—	導火線又は電気導火	容器・荷造ともの重	
			—	—		

三 引火性 の物	可燃性 液体	—	アセトシ	ネイルリムーバー*	量が二キログラム以 内のもの
		—	コジオン	水研削膏、角質軟化 剤*	
		—	フタノール（フタルアルコール）	希釈用アルコール*	
		—	松根油	絵具用溶剤*	
		—	テレピン油（松精油）	絵具用溶剤*	
		—	エタノール	消毒用エタノール、 除菌スプレー*	
		—	酢酸	食用酢酸、掃除用酢 酸、農業用酢酸*	
		—	鉱油原油	皮膚の保護剤、保護 剤、化粧品（ローシ ヨン、クリーム等） *	
		—	アルコール（変性アルコールを含む。）	酒類*	
		—	揮発油	—	
		—	ソルベントナフタ	—	
		—	コールタール軽油	—	
		—	ベンゼン（ベンゾール）	—	
		—	トルエン（トルオール）	—	
		—	キシレン（キシロール又はサイロール）	—	

四 可燃性 のガス	高圧 ガス	—	その他	—	エチレンオキシド	—
				—	酢酸ノルマルペンチル	—
				—	イソペンチルアルコール	—
				—	メチルエチルケトン	—
				—	その他の引火性の物及びその製品	二リットル以内又は 容器・荷造ともの重 量が二キログラム以 内のもの
				—	ベンキ*	二リットル以内又は 容器・荷造ともの重 量が二キログラム以 内のもの
				—	酸素ガス	医療用又は携帯用酸 素各器に封入した酸 素ガスで二本以内の もの
				—	炭酸ガス（二酸化炭素）	炭酸ガスで二本以内 のもの
				—	天然ガス	二リットル以内又は 容器・荷造ともの重 量が二キログラム以 内のもの
				—	水素ガス	二リットル以内又は 容器・荷造ともの重 量が二キログラム以 内のもの
				—	窒素ガス	二リットル以内又は 容器・荷造ともの重 量が二キログラム以 内のもの
				—	酸素ガス	二リットル以内又は 容器・荷造ともの重 量が二キログラム以 内のもの
				—	ヘリウム	二リットル以内又は 容器・荷造ともの重 量が二キログラム以 内のもの
				—	ネオンガス	二リットル以内又は 容器・荷造ともの重 量が二キログラム以 内のもの
				—	アセチレンガス	二リットル以内又は 容器・荷造ともの重 量が二キログラム以 内のもの

危険物		毒物・劇物		その他危険物	

—	塩化リン	—
—	臭化ベンジル	—
—	四塩化チタン	—

- 備考
- 「適用除外の物品」欄中「物品」欄に＊印が記載されているものは、日常の用途に使用する小売店等で通常購入可能な製品を適用除外とするものであり、その例を示しているものである。
 - 農薬取締法（昭和二十三年法律第八十二号）の適用を受けない農薬は、危険品に該当しない。

附 則

この規程は、令和七年四月一日から施行する。

●交通局規程第三十四号

東京都電車障害者用ＩＣカード取扱規程の一部を改正する規程を次のように定める。

令和七年三月三十一日

東京都交通局長 久 我 英 男

東京都電車障害者用ＩＣカード取扱規程の一部を改正する規程

東京都電車障害者用ＩＣカード取扱規程（令和五年交通局規程第三十二号）の一部を次のように改正する。

第一条中「又は療育手帳制度要綱」を「、療育手帳制度要綱」に、「第一種知的障害者と」を「又は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和二十五年法律第二百二十三号）第四十五条第二項の規定により精神障害者保健福祉手帳（写真が表示されているものに限る。）の交付を受けている者のうち第一種精神障害者及び」に改める。

第十九条ただし書中「という。」の下に「又は東京都精神障害者都営交通乗車証条例（平成十二年東京都条例第百八十五号）に基づく東京都精神障害者都営交通乗車証（以下「乗車証」という。）」を加える。

第二十七条第六項ただし書、第二十八条第五項、第三十一条第一項ただし書、第三十四条第六項ただし書及び第三十五条第五項中「無料乗車券」の下に「若しくは乗車証」を加える。

附 則

この規程は、令和七年四月一日から施行する。

●交通局規程第三十五号

東京都地下高速電車旅客営業規程の一部を改正する規程を次のように定める。

令和七年三月三十一日

東京都交通局長 久 我 英 男

東京都地下高速電車旅客営業規程の一部を改正する規程

東京都地下高速電車旅客営業規程（昭和三十五年交通局規程第十号）の一部を次のように改正する。

第三十一条第一項中「及び東京都地下高速電車知的障害者旅客運賃割引規程」を「、東京都地下高速電車知的障害者旅客運賃割引規程」に改め、「知的障害者割引規程」という。）第五条の下に「及び東京都地下高速電車精神障害者旅客運賃割引規程（令和六年交通局規程第三十七号。以下「精神障害者割引規程」という。）第五条」を加える。

第三十七条各号を次のように改める。

一 児童福祉法（昭和二十二年法律第百六十四号）第十二条の四に規定する児童相談所付設の一時保護所並びに同法第四十一条、第四十二条、第四十三条、第四十三条の二及び第四十四条に規定する児童養護施設、障害児入所施設、児童発達支援センター、児童心理治療施設及び児童自立支援施設

二 生活保護法（昭和二十五年法律第百四十四号）第三十八条に規定する保護施設。ただし、授産施設を除く。

三 社会福祉法（昭和二十六年法律第四十五号）第二条に規定する救護施設、施療施設及び宿泊提供施設で前号以外のもの

四 老人福祉法（昭和三十八年法律第百三十三号）第五条の三に規定する老人福祉施設。ただし、老人デイサービスセンター及び老人福祉センターを除く。

五 少年院法（平成二十六年法律第五十八号）第三条に規定する少年院及び少年鑑別所法（平成二十六年法律第五十九号）第三条に規定する少年鑑別所

六 更生保護法（平成十九年法律第八十八号）第二十九条に規定する保護観察所

第四十二条中「及び知的障害者割引規程」を「、知的障害者割引規程第五条及び精神障害者割引規程」に改める。

第百四条各号を次のように改める。

一 危険品及び他の旅客に危害を及ぼすおそれのあるもの
二 刃物（他の旅客に危害を及ぼすおそれがないようにこん包されたものを除く。）
三 暖炉及びこん炉（乗車中に使用するおそれがないと認められるもの及び暖炉を除く。ただし、不注意等により内容物が漏れ出ることがないよう措置することとす

る。）

四 死体

五 動物

六 車両を破損するおそれのあるもの

七 前各号のほか不潔又は臭気のため、他の旅客に迷惑をかけるおそれのあるもの
第百五条第一項各号を次のように改める。

一 危険品のうち適用除外の物品であつて、不注意等により内容物が漏れ出ることなどがないよう適切な保管対応が行われているもの

二 小鳥、昆虫、初生ひな又は愛玩用小動物及び魚介類で完全な容器に入れ、他の旅客の迷惑とならないもの

別表第一を次のとおり改める。

別表第一（第三条関係）
危険品

品目 番号	大分類	中分類	小分類	危険品の品目	適用除外の物品	
					物品	重量、数量等
爆発性 の物	火薬類	火薬	黒色火薬、その他硝酸塩を主とする火薬	銃用火薬	容器・荷造との重量がキログラム以内のもの	
			無煙火薬、その他硝酸エステルを主とする火薬			
			過塩素酸塩を主とする火薬			
		爆薬	雷こう、その他の起爆薬	—		
			硝安爆薬	—		
			塩素酸カリ爆薬	—		
			カーリット	—		
			その他の硝酸塩、塩素酸塩又は過塩素酸塩を主とする爆薬	—		
			硝酸エステル	—		
			ダイナマイト類	—		
			ニトロ化合物とこれを主とする爆薬	—		
		実包	雷管	銃用雷管	振動・衝撃等によって発火するおそれのない容器に収納した四百個以内のもの	
			銃用火薬	弾帯又は薬こうにそう入し、又は振動・衝撃等によって発火するおそれのない容器に収納した二百個以内（競技用の口徑のライフル銃用火薬包又は拳銃用火薬包にあつては八百個以内）のもの	弾帯又は薬こうにそう入し、又は振動・衝撃等によって発火するおそれのない容器に収納した二百個以内のもの	
				銃用火薬	銃用火薬	
				空包	銃用火薬	
				信管	—	
		火工品	火管	—		
			導爆線	—		
			雷管又は火管付薬きよう	銃用雷管付薬きよう	振動・衝撃等によって発火するおそれのない容器に収納した四百個以内のもの	
			火薬又は爆薬を装てんした弾丸類	—		
			星火を発する榴弾	—		
			救命発射器用ロケット	—		
			煙火	—		
			がん具煙火	がん具煙火（おもちゃや花火、発射筒等）、競技用紙雷管及びその他のがん具用煙火工品	容器・荷造との重量がキログラム以内のもの	
			競技用紙雷管（大形紙雷管を含む。）	—		
			導火線	導火線又は電気導火	容器・荷造との重量がキログラム以内のもの	

	電気導火線		線	量が三キログラム以内のもの
	その他の火工品			
爆発性の物	その他	その他、火薬類取締法（昭和二十五年法律第四十九号）で定める火薬類	—	—
	—	ニトログリセリン	狭心症用舌下錠*	容器・荷造との重量が二キログラム以内のもの
	—	ニトロセルローズ	ラッカーズレー*	容器・荷造との重量が三キログラム以内のもの
	—	過酸化ベンゾイル	ニキビ治療薬*	—
	—	ジニトロベンゼン	—	—
	—	ジニトロアフラリン	—	—
	—	ジニトロトルエン	—	—
	—	ジニトロフェノール	—	—
	—	ニトログリコール	—	—
	—	トリニトロベンゼン	—	—
その他の爆発性の物	—	トリニトロトルエン	—	—
	—	ピクリン酸	—	—
	—	過酢酸	—	—
	—	メチルエチルケトン過酸化物	—	—
	—	アジ化ナトリウム	—	—
	—	その他、労働安全衛生法施行令（昭和四十七年政令第三百十八号）における危険物「一、爆発性の物」に該当する品目	—	—
	—	安全マッチ	安全マッチ	容器・荷造との重量が三キログラム以内のもの
	—	酸化リソベツチ	—	—
	—	黄リンベツチ	—	—
	—	セルロイド類	ペン、眼鏡*	実重量が三百グラム以内のもの
発火性の物	—	金属カリウム	—	—
	—	金属リチウム	—	—
	—	金属ナトリウム（金属ソーダ）	—	—
	—	カリウムアセリガム	—	—
	—	ナトリウムアセリガム	—	—
	—	ワグネツシウム（粉末形状又はひも状のものに限る。）	—	—
	—	アルミニウム粉	—	—
	—	ワグネツシウム粉及びアルミニウム粉以外の金属粉	—	—
	—	黄リン	—	—
	—	硫化リン	—	—
その他の発火性の物	—	赤りん	—	—
	—	リン化石灰	—	—
	—	リン化カルシウム	—	—
	—	パイロサルファイト（重二チオソルチナトリウム）	—	—
	—	カーバサド（炭化カルシウム）	—	—
	—	その他の発火性の物及び製品	油紙（刃物用包装紙等）*	容器・荷造との重量が五キログラム以内のもの
	—	メタノール（メチルアルコール又は木精）	消毒用アルコール*	二リットル以内又は容器・荷造との重
	引火性の物	可燃性液体	—	—
	三	—	—	—

[illegible]

いう。)の種類及び発売の条件は、次のとおりとする。

- 一 普通乗車券 第一種精神障害者が介護者とともに乗車する場合に発売する。
- 二 定期乗車券 第一種精神障害者又は十二歳未満の第二種精神障害者が介護者とともに乗車する場合に発売する。

- 三 回数乗車券 第一種精神障害者が介護者とともに乗車する場合に発売する。
- 第五条に次の二項を加える。

- 3 前項の規定にかかわらず、精神障害者が六歳未満の幼児又は乳児（以下「乳幼児」という。）の場合、旅客営業規程第十四条の五第三項の規定を適用して当該精神障害者は無賃として取り扱い、この場合、介護者に対しては割引乗車券を単独で発売するものとする。ただし、介護者が無賃で随伴できる乳幼児は、当該精神障害者を含め、二人までとする。

- 4 精神障害者に対して通学定期乗車券を発売する場合であっても、介護者に対して発売する定期乗車券は、通勤定期乗車券に限るものとする。

第六条中「地下高速電車」の下に「及び連絡運輸取扱」を加え、同条に次のただし書を加える。

ただし、前条第二項ただし書の規定の適用を受ける場合の割引区間は、地下高速電車の各駅相互間とする。

第七条に次のただし書を加える。

ただし、小児定期乗車券に対しては、旅客運賃の割引をしない。

附 則

この規程は、令和七年四月一日から施行する。

●交通局規程第三十七号

東京都地下高速電車連絡運輸規程の一部を改正する規程を次のように定める。

令和七年三月三十一日

東京都交通局長 久 我 英 男

東京都地下高速電車連絡運輸規程の一部を改正する規程

東京都地下高速電車連絡運輸規程（昭和三十五年交通局規程第十二号）の一部を次の

ように改正する。

第二条第一項第十六号を次のように改める。

十六 削除

第二条第二項第一の表を次のように改める。

[illegible]

	各駅	松戸線	各駅		
新宿線	各駅	森下駅 (内)	大江戸線	藏前駅	浅草線
新宿線	各駅				
		本人橋駅・京成八幡駅			
新宿線	各駅	本人橋駅・京成八幡駅			
三田線	各駅	神保町駅	新宿線		
大江戸線	(外) 大門駅～代々木駅(内) 春日駅～都庁前駅、光が丘駅～西新宿五丁目駅	新宿駅	新宿線		
大江戸線	(外) 都庁前駅～両国駅(内) 光が丘駅～清澄白河駅	森下駅	新宿線		
浅草線	各駅	東日本橋駅・馬喰横山駅	新宿線		
浅草線	浅草駅～押上駅	蔵前駅	大江戸線	森下駅	新宿線
浅草線	西馬込駅～三田駅	大門駅 (内)	大江戸線	森下駅	新宿線
三田線	目黒駅～神保町駅	三田駅	浅草線	東日本橋駅・馬喰横山駅	新宿線
三田線	神保町駅～西高島平駅	春日駅 (外)	大江戸線	森下駅	新宿線
大江戸線	(外) 都庁前駅～飯田橋駅	春日駅	三田線	神保町駅	新宿線
大江戸線	(外) 森下駅～汐留間駅(内) 新宿駅～赤羽橋駅	大門駅	浅草線	東日本橋駅・馬喰横山駅	新宿線

二 東日本線經由

既設連絡乗車券 の種別	連絡区域							
	地丁高速電車		接続駅	東日本線		接続駅	京成線	
	線名	発着駅		線名	線名		発着駅	
	通勤定期乗車券 通学定期乗車券	浅草線	各駅	東日本橋駅・馬車町駅・ 新橋駅	総武線	津田沼駅・ 新津田沼駅	松戸線	各駅
	三田線	西高島平駅～春日駅	栗駒駅	山手線	日暮里駅	本線	東成田線	各駅

				千葉線 千原線 押上線 金町線 松戸線 各駅	
	三田線 新宿線 各駅	各駅	水道橋駅 東日本橋駅・馬喰町駅・ 本八幡駅	中央線・総武線 総武線	京成東田沼 駅 松戸線 各駅

三 東京メトロ線・東日本線経由

取扱い連絡 乗車券の 種別		連絡区域		京成線	
種別	地下高速電車		接続駅 口線	東日本線	
	線名	発着駅		線名	接続駅
通勤定期 乗車券	三田駅	各駅	大手町駅・ 小川町駅・ 新御茶ノ水 駅	千代田線 北千住駅	常磐線 松戸駅
通学定期 乗車券	新宿線	各駅	東西線 西船橋駅	総武線 津田沼駅・ 新津田沼駅	松戸線 各駅
	浅草線	各駅	日本橋駅		
	三田駅	各駅	大手町駅		
	新宿線	新宿駅～市ヶ 谷駅	九段下駅		
	大江戸線	(内)光が丘駅 ～月島駅、 (外)光が丘駅 ～清澄白河駅	門前仲町駅		
	大江戸線	(内)新御徒町 駅～春日駅、 (外)国立競技 場駅～牛込神 楽坂駅、光が 丘駅～西新宿 五丁目駅	飯田橋駅		

四 東京メトロ線・東葉高速線経由

取扱い連絡 乗車券の種 別		連絡区域		京成線	
種別	地下高速電車		接続駅 線	東葉高速線	
	線名	発着駅		線名	接続駅
通勤定期 乗車券	浅草線	各駅	日本橋駅	東西線 西船橋駅	東葉高速線 北習志野駅
通学定期 乗車券	三田線	各駅	大手町駅		松戸線 各駅
	新宿線	新宿駅～市ヶ谷 駅	九段下駅		

期乗車 券	大江戸線	(内)光が丘駅～ 月島駅、(外)光 が丘駅～清澄白 河駅	門前仲町駅					
	大江戸線	(内)新御徒町駅 ～春日駅、(外) 国立競技場駅～ 牛込神楽坂駅、 光が丘駅～西新 宿五丁目駅	飯田橋駅					

五 京成線・北総線経由

取扱い連絡 乗車券の 種別		連絡区域		京成線	
種別	地下高速電車		接続駅 線名	北総線	
	線名	発着駅		線名	接続駅
通勤定期 乗車券	浅草線	各駅	押上駅	京成線 京成高砂駅	北総線 新鎌ヶ谷駅
通学定期 乗車券					松戸線 各駅

第二条第二項第十六の表を次のように改める。

第十六 削除

第八条中「「身体障害者割引規程」という。」及び「を」「身体障害者割引規程」という。）、」に改め、「「知的障害者割引規程」という。）」の下に「及び東京都地下高速電車精神障害者旅客運賃割引規程（令和六年交通局規程第三十七号。以下「精神障害者割引規程」という。）」を加え、「及び知的障害者割引規程」を「、知的障害者割引規程及び精神障害者割引規程」に改める。

附 則

この規程は、令和七年四月一日から施行する。

●交通局規程第三十八号

東京都日暮里・舎人ライナー条例施行規程の一部を改正する規程を次のように定める。
令和七年三月三十一日

東京都交通局長 久 我 英 男

東京都日暮里・舎人ライナー条例施行規程の一部を改正する規程

東京都日暮里・舎人ライナー条例施行規程（平成二十年交通局規程第三十一号）の一部を次のように改正する。

第二十三条第二項中「認めたもの」の下に「（以下「身体障害者手帳等」という。）」を加え、同条第三項中「前二項」を「前三項」に改め、同項を同条第四項とし、同条第二項の次に次の一項を加える。

3 前二項の規定にかかわらず、身体障害者が六歳未満の乳児又は幼児（以下「乳幼児」という。）の場合、当該身体障害者は無賃として取り扱い、介護者に対しては、割引普通乗車券を単独で発売するものとする。

第二十四条第二項中「認めたもの」の下に「（以下「療育手帳等」という。）」を加え、同条第四項中「前三項」を「前各項」に改め、同項を同条第五項とし、同条第三項の次に次の一項を加える。

4 前三項の規定にかかわらず、知的障害者が六歳未満の乳幼児の場合、当該知的障害者は無賃として取り扱い、介護者に対しては、割引普通乗車券を単独で発売するものとする。

とする。

第二十四条の二第二項中「認めたもの」の下に「（以下「精神障害者手帳等」という。）」を加え、同条第三項中「前二項」を「前三項」に改め、同項を同条第四項とし、同条第二項の次に次の一項を加える。

3 前二項の規定にかかわらず、精神障害者が六歳未満の乳幼児の場合、当該精神障害者は無賃として取り扱い、介護者に対しては、割引普通乗車券を単独で発売するものとする。

第二十四条の三中「前条」を「第二十四条」に、「身体障害者手帳若しくは療育手帳又はそれらの手帳保有者の本人確認に利用することができるものとして交通局長が認めたもの」を「身体障害者手帳等又は療育手帳等」に改める。

第二十四条の四中「精神障害者手帳又は手帳保有者の本人確認に利用することができるものとして交通局長が認めたもの」を「精神障害者手帳等」に改める。

第二十五条第一項第一号中「第四十二条」の下に「、第四十三条」を加え、「第四十三条の三」を削り、「知的障害児施設、盲ろうあ児施設、肢体不自由児施設」を「障害児入所施設、児童発達支援センター、児童心理治療施設」に改め、同項第五号中「（昭和二十三年法律第六十九号）第一条」を「（平成二十六年法律第五十八号）第三条」に、「同法第十六条」を「少年鑑別所法（平成二十六年法律第五十九号）第三条」に改め、同項第六号中「犯罪者予防更生法（昭和二十四年法律第四百二十二号）第十八条」を「更生保護法（平成十九年法律第八十八号）第二十九条」に改める。

第二十八条第一項中「身体障害者手帳又は身体障害者手帳保有者の本人確認に利用することができるものとして交通局長が認めたもの」を「身体障害者手帳等」に改め、同条第三項中「前二項」を「前三項」に改め、同項を同条第四項とし、同条第二項の次に次の一項を加える。

3 前二項の規定にかかわらず、身体障害者が六歳未満の乳幼児の場合、当該身体障害者は無賃として取り扱い、介護者に対しては、割引定期乗車券を単独で発売するものとする。

第二十九条第一項中「療育手帳又は療育手帳保有者の本人確認に利用することができるものとして交通局長が認めたもの」を「療育手帳等」に改め、同条第四項を同条第五

項とし、同条第三項の次に次の一項を加える。

4 前三項の規定にかかわらず、知的障害者が六歳未満の乳幼児の場合、当該知的障害者は無賃として取り扱い、介護者に対しては、割引定期乗車券を単独で発売するものとする。

第二十九条の二第一項中「前条」を「第二十九条」に、「身体障害者手帳若しくは療育手帳又はそれらの手帳保有者の本人確認に利用することができるものとして交通局長が認めたもの」を「身体障害者手帳等又は療育手帳等」に改め、同条第二項中「前条」を「第二十九条」に改め、同条を第二十九条の三とし、同条の次に次の一条を加える。

（乗車証を所持する精神障害者の介護者に対する割引定期乗車券の発売）

第二十九条の四 第二十九条の二第二項の規定にかかわらず、乗車証を所持する精神障害者の介護者は、当該精神障害者と共に乗車する場合に限り、当該精神障害者の精神障害者手帳等を提示の上、割引通勤定期乗車券を購入することができる。

第二十九条の次に次の一条を加える。

（精神障害者に対する割引定期乗車券の発売）

第二十九条の二 精神障害者がライナーの各駅相互間内において、単独又は介護者と共に、常時、同じ区間及び経路を使って順路によって乗車する場合で、精神障害者手帳等を提示し、必要事項を記入した定期乗車券購入申込書を提出したときは、精神障害者には割引通勤定期乗車券又は割引通学定期乗車券を、その介護者には割引通勤定期乗車券を発売する。ただし、割引通学定期乗車券の発売は、通学証明書を同時に提出した場合に限る。

2 前項の介護者に対して発売する割引通勤定期乗車券は、精神障害者本人と乗車区間及び有効期間が同一であり、かつ、精神障害者の割引定期乗車券と同時に購入するとき、その介護者一人に限り発売する。

3 前二項の規定にかかわらず、精神障害者が六歳未満の乳幼児の場合、当該精神障害者は無賃として取り扱い、介護者に対しては、割引定期乗車券を単独で発売するものとする。

4 前三項の介護者は、係員が介護能力があると認める者でなければならない。

第三十二条中「第三十四条の二」の下に、「第三十四条の三」を加える。

第三十三条第一項中「身体障害者手帳又は身体障害者手帳保有者の本人確認に利用することができるものとして交通局長が認めたもの」を「身体障害者手帳等」に改め、同条第三項中「前二項」を「前三項」に改め、同項を同条第四項とし、同条第二項の次に次の一項を加える。

3 前二項の規定にかかわらず、身体障害者が六歳未満の乳幼児の場合、当該身体障害者は無賃として取り扱い、介護者に対しては、割引回数乗車券を単独で発売するものとする。

第三十四条第一項中「療育手帳又は療育手帳保有者の本人確認に利用することができるものとして交通局長が認めたもの」を「療育手帳等」に改め、同条第三項中「前二項」を「前三項」に改め、同項を同条第四項とし、同条第二項の次に次の一項を加える。

3 前二項の規定にかかわらず、知的障害者が六歳未満の乳幼児の場合、当該知的障害者は無賃として取り扱い、介護者に対しては、割引回数乗車券を単独で発売するものとする。

第三十四条の二中「前条」を「第三十四条」に、「身体障害者手帳若しくは療育手帳又はそれらの手帳保有者の本人確認に利用することができるものとして交通局長が認めたもの」を「身体障害者手帳等又は療育手帳等」に改め、同条を第三十四条の三とし、同条の次に次の一条を加える。

（乗車証を所持する精神障害者の介護者に対する割引回数乗車券の発売）

第三十四条の四 第三十四条の二第二項の規定にかかわらず、乗車証を所持する精神障害者の介護者は、当該精神障害者と共に乗車する場合に限り、当該精神障害者の精神障害者手帳等を提示の上、割引通勤回数乗車券を購入することができる。

第三十四条の次に次の一条を加える。

（精神障害者に対する割引回数乗車券の発売）

第三十四条の二 精神障害者がライナーの各駅相互間内において、単独又は介護者と共に区間を同じにして乗車する場合で、精神障害者手帳等を提示したときは、精神障害者及びその介護者に対して割引回数乗車券を発売する。

2 前項の介護者に対して発売する割引回数乗車券は、精神障害者本人と乗車区間が同一であり、かつ、精神障害者の割引回数乗車券と同時に購入するとき、その介護者一

人に限り発売する。

3 前二項の規定にかかわらず、精神障害者が六歳未満の乳幼児の場合、当該精神障害者は無賃として取り扱い、介護者に対しては、割引回数乗車券を単独で発売するものとする。

4 前三項の介護者は、係員が介護能力があると認める者でなければならない。

第七十九条第一項及び第二項中「身体障害者手帳又は身体障害者手帳保有者の本人確認に利用することができるものとして交通局長が認めたもの」を「身体障害者手帳等」に改める。

第八十条第一項中「療育手帳を提示して」を「療育手帳等を提示して」に改め、第二項中「療育手帳」の下に「等」を加える。

第八十条の二第一項及び第二項中「精神障害者手帳又は精神障害者手帳保有者の本人確認に利用することができるものとして交通局長が認めたもの」を「精神障害者手帳等」に改める。

第三百三十条第三号中「こん炉」の下に「（乗車中に使用するおそれがないと認められるもの及び懷炉を除く。ただし、不注意等により内容物が漏れ出ることがないよう措置することとする。）」を加える。

第三百三十一条中「第一号及び第二号に掲げるものにあつては、第三百三十二条」を「次条」に改め、同条第一号中「及び危険のおそれのないもの」を削り、「内容物」を「不注意等により内容物」に改め、「処置されている」を「適切な保管対応が行われた」に改める。

第三百三十一条第三号を削り、同条に次の一項を加える。

2 旅客は、列車等の状況により、運輸上支障を生ずるおそれがないと認められる場合に限り、次の各号に掲げる犬を車内に随伴させることができる。

一 身体障害者補助犬法（平成十四年法律第四十九号）第十六条第一項に規定する認定を受けた身体障害者補助犬。ただし、同法第十二条に規定された表示を行い、旅客が身体障害者補助犬認定証を所持する場合に限る。

二 道路交通法（昭和三十五年法律第百五号）第十四条第一項にいう政令で定める盲導犬。ただし、盲導犬がハーネスをつけ、旅客が盲導犬使用者証を所持する場合に

限る。

第三百三十二条第二項中「又は完全に包装された運動用具」を削り、同条に次の一項を加える。

3 旅客は第一項に規定する制限内であっても、自転車及びサーフボード等の運動用具については、次の各号に掲げる場合に限り、車内に持ち込むことができる。

一 自転車にあつては、解体して専用の袋に収納したもの又は折りたたみ式自転車であつて、折りたたんで専用の袋に収納したもの

二 サーフボード等の運動用具にあつては、専用の袋に収納したもの
別表第一を次のように改める。

別表第一 (第三関係)
危険品

品目 番号	大分類	中分類	小分類	危険品の品目	適用除外の物品	
					物品	重量、数量等
一 爆発性 の物	火薬類	火薬	黒色火薬、その他硝酸塩を主とする火薬	銃用火薬	容器・荷造との重量が一キログラム以内のもの	
			無煙火薬、その他硝酸エステルを主とする火薬			
			過塩素酸塩を主とする火薬			
		爆薬	雷こう、その他の起爆薬	—		
			硝安爆薬	—		
			塩素酸カリ爆薬	—		
			カーリット	—		
			その他の硝酸塩、塩素酸塩又は過塩素酸塩を主とする爆薬	—		
			硝酸エステル	—		
			ダイナマイト類	—		
			ニトロ化合物とこれを主とする爆薬	—		
		雷管	銃用雷管	振動・衝撃等によつて発火するおそれのない容器に収納した四百個以内のもの		
				弾帯又は薬こうにそう入し、又は振動・衝撃等によつて発火するおそれのない容器に収納した二百個以内（競技用の口銃○・ニニオンチ以内のライフル銃用実包又は拳銃用実包にあっては八百個以内）のもの		
			銃用実包			
		火工品	空包	銃用空包	弾帯又は薬こうにそう入し、又は振動・衝撃等によつて発火するおそれのない容器に収納した二百個以内のもの	
			信管		—	
			火管		—	
			導爆線		—	
			雷管又は火管付薬きょう	銃用雷管付薬きょう	振動・衝撃等によつて発火するおそれのない容器に収納した四百個以内のもの	
			火薬又は爆薬を装填した弾丸類	—		
			星火を発する留弾	—		
救命素座封器用ロケット	—					
煙火	—					
がん具煙火（おもちゃ	がん具煙火（おもちゃや花火、発炎筒		容器・荷造との重量が一キログラム以内のもの			
	競技用紙雷管（大形紙雷管を含む。）	及びその他のがん具用煙火工品	容器・荷造との重量が一キログラム以内のもの			
	導火線	導火線又は電気導火	容器・荷造との重量が一キログラム以内のもの			

三 引火性 の物	可燃性 液体	—	アセトン	ネイルリムーバー*	量が二キログラム以内のもの
		—	コロジオン	水耕剤、角質軟化剤*	
		—	フタノール（フタルアルコール）	希釈用アルコール*	
		—	松根油	絵具用溶剤*	
		—	テレピン油（松精油）	消毒用エタノール、除菌スプレー*	
		—	エタノール	食用酢酸、掃除用酢酸、農業用酢酸*	
		—	酢酸	皮膚の保護剤、保潔剤、化粧品（ローション、クリーム等）*	
		—	鉱油原油	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの	
		—	アルコール（変性アルコールを含む。）	酒類*	
		—	揮発油	—	
		—	ソルベントナフタ	—	
		—	コールタール軽油	—	
		—	ベンゼン（ベンゼンール）	—	
		—	トルエン（トルオール）	—	
		—	キシレン（キシロール又はギイロール）	—	
		—	二硫化炭素	—	
		—	酢酸ビニルモノマ	—	
		—	エーテル	—	
		—	クロロシラン	—	
		—	アセトアルデヒド	—	
四 可燃性 のガス	高圧 ガス	—	バアアルデヒド	—	圧縮 ガス
		—	ジエチルアルミニウム	—	
		—	モノメチルアミン	—	
		—	トリメチルアミンの水溶液	—	
		—	ジメチルアミン	—	
		—	ピリジン	—	
		—	酢酸アルミ	—	
		—	酢酸エチル	—	
		—	酢酸メチル	—	
		—	酢酸エチル	—	
		—	フロピルアルコール	—	
		—	ピニルメチルエーテル	—	
		—	臭化エチル（エチルブロマイド）	—	
		—	酢酸フタル	—	
		—	フーゼル油	—	
		—	灯油（石油）	—	
		—	軽油（ガス油）	—	
		—	重油（ベンカー油、ディーゼル重油）	—	
		—	ガソリン	—	
五 液体 のガス	液体 ガス	—	ニトロベンゼン（ニトロベンゼンール）	—	圧縮 ガス
		—	ニトロトルエン（ニトロトルオール）	—	
		—	エチルエーテル	—	
		—	酸化プロピレン	—	
		—	ノルマルヘキサン	—	
		—	エチレンオキシド	—	
		—	酢酸ノルマルペンチル	—	
		—	イソペンチルアルコール	—	
		—	メチルエチルケトン	—	
		—	その他の引火性の物及びその製品	ベンキ* 酸素ガス*	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	酸素ガス	酸素ガス、 酸素ガス*	医療用又は携帯用酸素ガスで二本以内のもの
		—	炭酸ガス（二酸化炭素）	消火器	消火器内に封入した炭酸ガスで二本以内のもの
		—	天然ガス	炭酸ガスカートリッジ*	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	水素ガス	プロパンガス*	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	窒素ガス	水素ガス吸入器* 窒素ガスボンベ*	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	オゾン	オゾン発生器*	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	ヘリウム	ヘリウムガス*	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	ネオンガス	ネオン管*	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	アセチレンガス	—	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	酸化水素ガス	—	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	一酸化炭素ガス	—	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	石炭ガス	—	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	水性ガス	—	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	空気ガス	—	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	アンモニアガス	—	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	塩素ガス	—	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	亜酸化窒素ガス（笑気ガス）	—	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	ホスゲンガス	—	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	アルゴン	—	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	エタン	—	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	エチレン	—	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	メタン	—	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	その他の圧縮ガス及びその製品	—	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	液体炭酸	消火器	消火器内に封入した炭酸ガスで二本以内のもの
		—	液化プロパン	プロパンガス*	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	フリオーン12	エフソール噴射剤、 エフソングラス*	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	フリオーン22	エフソール噴射剤、 エフソングラス*	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	フタケ	フタケ、カセツト	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	液体窒素	—	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	液体酸素	—	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	液体アンモニア	—	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの

五 液体 のガス	液体 ガス	—	エチレンオキシド	—	圧縮 ガス
		—	酢酸ノルマルペンチル	—	
		—	イソペンチルアルコール	—	
		—	メチルエチルケトン	—	
		—	その他の引火性の物及びその製品	ベンキ* 酸素ガス*	
		—	酸素ガス	酸素ガス、 酸素ガス*	
		—	炭酸ガス（二酸化炭素）	消火器	
		—	天然ガス	炭酸ガスカートリッジ*	
		—	水素ガス	プロパンガス*	
		—	窒素ガス	水素ガス吸入器* 窒素ガスボンベ*	
		—	オゾン	オゾン発生器*	
		—	ヘリウム	ヘリウムガス*	
		—	ネオンガス	ネオン管*	
		—	アセチレンガス	—	
		—	酸化水素ガス	—	
		—	一酸化炭素ガス	—	
		—	石炭ガス	—	
		—	水性ガス	—	
		—	空気ガス	—	
		—	アンモニアガス	—	
		—	塩素ガス	—	
		—	亜酸化窒素ガス（笑気ガス）	—	
		—	ホスゲンガス	—	
		—	アルゴン	—	
		—	エタン	—	
		—	エチレン	—	
		—	メタン	—	
		—	その他の圧縮ガス及びその製品	—	
		—	液体炭酸	消火器	消火器内に封入した炭酸ガスで二本以内のもの
		—	液化プロパン	プロパンガス*	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	フリオーン12	エフソール噴射剤、 エフソングラス*	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	フリオーン22	エフソール噴射剤、 エフソングラス*	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	フタケ	フタケ、カセツト	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	液体窒素	—	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	液体酸素	—	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの
		—	液体アンモニア	—	ニトリトル以内又は容器・荷造ともの重量が二キログラム以内のもの

[illegible]

